

---

---

# 平成26年度区民会議交流会報告

---

---

平成27年3月

市民・こども局区政推進部区調整課



## ◆ 目次

1	開催概要	2
2	市長挨拶	3
3	市長講演	4
4	市長講演に対する質疑応答	7
5	7区区民会議委員の意見交換の内容 ～幅広い世代が区民会議に関わってもらうには～	10
6	区民会議交流会アンケート結果	18
7	当日配布資料	27

## 1 開催概要

各区の委員が集まり、互いに取り組状況や運営方法の情報交換を行うとともに、相互の連携を深めることで、今後の区民会議の発展につなげることを目的に7区の区民会議交流会を開催しました。

### (1) 日時

平成27年2月9日(月) 18時00分～19時30分

### (2) 会場

川崎市総合福祉センター(エポックなかはら) 7階大会議室

### (3) 参加者数

[委員] 84名

川崎区(14名)、幸区(9名)、中原区(18名)、高津区(9名)、  
宮前区(14名)、多摩区(11名)、麻生区(9名)

[行政] 26名

市長

区長、副区長、区企画課長、区企画課担当係長

市民・こども局長、市民・こども局区政推進部長

(事務局) 市民・こども局区政推進部区調整課

### (4) 傍聴者数

12名(議員・行政関係者)

### (5) 内容

ア 開会の挨拶 [福田紀彦 川崎市長]

イ 講演・質疑応答 [福田紀彦 川崎市長]

ウ 7区区民会議委員の意見交換

～幅広い世代が区民会議に関わってもらうには～

エ 閉会の挨拶 [加藤順一 市民・こども局長]

## 2 市長挨拶

皆さんこんばんは、川崎市長の福田紀彦でございます。

今日は、皆様にお忙しいところ、区民会議の交流会に御参加をいただきまして、誠にありがとうございました。

第5期の区民会議のメンバーとしては全体として初めてお会いします。第4期の方の  
だいたい半数くらいが入れ替わっているということでございますので、初めてお会いす  
方もいらっしゃるかと思えますけれども、どうかよろしく申し上げます。

そして、皆様方には日頃からいろいろな形で、区民会議だけでなくそれぞれの地域で、  
主体的なまちづくり活動に参加していただいていることに、併せて感謝を申し上げたい  
と思っております。

今日の区民会議の交流会の意見交換会のテーマであります、どうやって多くの世代の  
人たちに関わっていただくかというのは、まさに私たち行政としても最も頭を悩ませて  
いるところであります。まずは、市民の皆さんに川崎のまちの魅力のことを、自分たち  
のまちを知ってもらうこと、そして興味を持ってもらって参加してもらって、更に連携  
していくという、ステップをどんどん踏んでいかないといけないと思っているのですが、  
ぜひ皆様方と一緒に、川崎を更に良いまちにしていきたいというふうに思ってお  
ります。今日の会議が実りあるものになりますように、皆様の御協力よろしくお願  
いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。



### 3 市長講演

市政の今の問題・課題認識と、それから今どういうふうに進めていくのかということのざっくりとしたお話をさせていただきたいと思います。10分間しかございません。以前、各区の区民会議の席で、ある程度はお話をさせていただいていると思いますので、ざっくりとした概要についてお話をさせていただきたいと思います。

私の掲げている将来ビジョンは、「成長と成熟のまち、調和による持続可能な最幸のまち、かわさき」ということで、子どもからお年寄りまで、身近な市民生活を支えている安心のふるさとづくりです。待機児童の話や、中学校給食や、あるいは健康・福祉、そういった政策が含まれておりますが、このようなどころには大変税金が大きく掛かってきます。その税金を生み出すためには、やはり力強い産業都市づくりを進めていかないといけない。この二つを両方バランスよく回していかないと、持続可能な社会というのはありえません。2月6日に平成27年度の川崎市の予算発表をさせていただきました。この両方のバランスをしっかりと取って、両立させていくことが重要だと考えております。

私の問題認識はですね、今、総合計画を作らせていただいておりますが、全ての社会問題というものは人口問題に起因しているといっても過言ではありません。私たちの川崎市は、人口減少といったところが全国で叫ばれている中にあっても、人口が伸び続けています。1年前は145万人でしたが、現在は約146万2,000人になっておりますので、1年間で約1万2,000人も伸びました。2030年までは人口が伸び続けるというふうに推計しているので、最終的には152万人を超える程度まで増え続けると予想しております。

一方で、0歳～14歳までの年少人口と言われる人口は、おそらく今年にピークを迎えます。しかし、人口が増え続けるのは、他の都市からの流入人口というのが増えているからです。神奈川県内で最も流入人口が多く、全国で5番目ということでもあります。人口は伸び続けていますが、年少人口がピークに達するということは、高齢化率は上昇していきます。普通の自治体が1.3倍のスピードで高齢化へ走っていくところを、川崎市は1.9倍のスピードで走っていきます。この勢いは加速度的に高齢化していくことになります。

また、15歳～65歳までの生産年齢人口が68%います。全国平均は62%ですから、圧倒的に生産年齢人口が多いというのが川崎のポテンシャルであります。高齢化率は上昇していきます。現在川崎市は、神奈川県内で唯一「超高齢社会」ではなく「高齢社会」にいますが、2020年のオリンピックの年には超高齢社会を迎えて、全人口の内65歳以上の方が21%を超える状態になり、川崎市も超高齢社会の仲間入りをするわけです。

こういった状況の中を見据えて、いろいろな中長期的な政策や財政問題を考えていか

ないと、持続可能な社会にはなりません。そこを私達自身がどう考えていくかが、最も大切なところですよ。

今年も税収は伸びています。これからも伸び続ける要因があります。しかし、それを上回るスピードで扶助費をはじめとして支出が多くなっていきます。結局、いつまでたっても財政は厳しい。全国一若い都市で人口も増えているのに、なんでこんなに税収が厳しいのか、不思議に思われる方はすごく多いですが、どの自治体も同じように、高齢化率が高くなっていくと、必然的にその財政支出は多くなっていく。税収が増えても、それを上回るということになります。ですから、これから川崎市の行政として本当に何をやるべきなのか、行政だけで考えるのではなくて、市民の視点を通して考えないといけないと思っております。若い人達であっても、高齢者であってもやっぱりこういう施策は必要だという納得感がないと、これからの自治体経営というもののはものすごく難しいと思っております。

私が思っている、これからの川崎の10年で最も重要な施策というのは、「地域包括ケアシステム」だと思っております。今から10年後、団塊の世代が後期高齢者になるといって、2025年を迎えます。800万人もの団塊の世代の方が一斉に後期高齢者になりますので、今までに経験したことのないことが発生する。そのときまでに、この10年間でケアが必要な方も、ケアが必要じゃない方も、その地域に本当に暮らし続けられるような仕組みをどう作っていくかというのが最も重要なことです。障害があっても、高齢になっても、子育てしてても、小学校区くらいの単位でそういった、本当に暮らし続けられる仕組みづくりというものを、10年間かけて丁寧にやっていかないといけない。都市部にありながらもそういった地域を作り上げる事ができるかというのが、私のこれからの10年間で、最も求められている重要な施策だというふうに思っています。

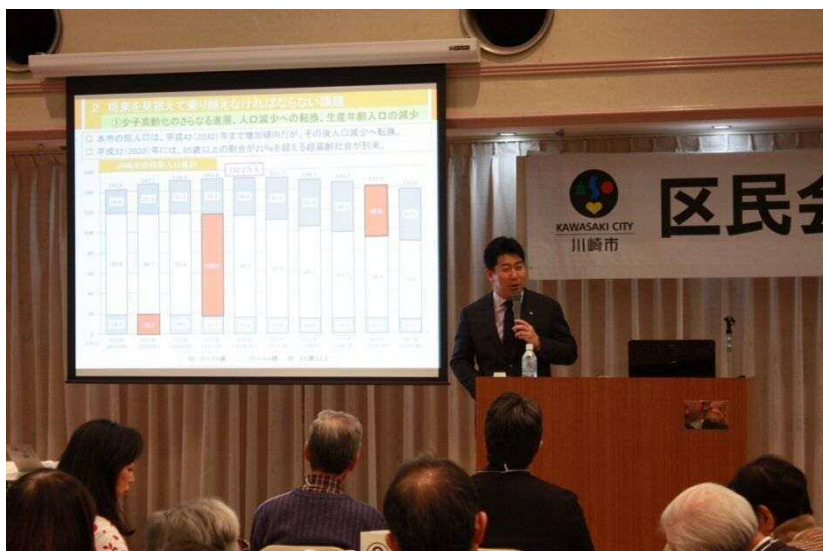
そういった意味で、今日お集まりの皆さんの中には町内会活動をされている、民生児童委員をされている、福祉の仕事をしている、まちづくりでいろんな形で子ども達に関わっていただいているとか、現在ご活躍していただいている地域資源の人材がたくさんいらっしゃるわけです。

例えば、高齢者福祉のことに携わっている方であれば、そこにどういう人たちが張りついているかという情報を「地図」にしてもっている。子どものことであれば、子ども用の地図があったり、障害者の問題であれば障害者用の地図があったりするわけです。

このようにバラバラになっている地図を重ね合わせていって、この地域の中にどんな人達が暮らしていて、どんな活動されているのかということ、みんなが顔が見える環境をしっかりと作っていく。そして、「地域包括ケアシステム」というものを作っていくかなければならないというふうに思っているわけです。

この新しい総合計画を作るに当たって、最初に私が取り組んだのは、各区に無作為抽出で総合計画の策定に向けた、市民検討会の参加者希望を募り、各区30人ずつ10代から80代まで男女バランスよく集まっていただきました。その中で、まったく知識

のないところから議論していくと、不思議と各区同じような課題認識になりました。それは、本当に地域を良くしていくためには、世代間交流というものをもっとやっつけていけないといけない、子育ての世代の人達、あるいは高齢者の方々がもっと交流していく、お互いを良くする。そうすることによって助け合える互助・共助というものが生まれてくる。このようなことを、どこの区でもおっしゃっていました。こういった無作為抽出からいただいたお話と、それぞれの各区で実際に活動されている区民会議のみなさん、こういった課題認識というのを共有して、先ほど申し上げた「地図」のように重ね合わせていって、総合計画というのものにしていかなければならないと思っております。今日の議論もまた楽しみにさせていただいておりますので、私も議論の中に加えさせていただきたいと思っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。





## 4 市長講演に対する質疑応答

### 〈川崎区朴委員〉

私、市長と年が近いということであるんですけども、1月24日に川崎区の方で「みんなが主役、地域の見守り」というのがあって、川崎区に住んでいることに誇りをもっているんですけども、川崎区が住みやすいということですね。回答者の9割が川崎区住みやすいと、住み続けたいという方が8割近くいらっしゃるということなんですけれども、私からの要望なんですけれども、川崎区だけじゃなく、全区内、川崎市がですね、横浜とか東京に負けなくらい住みやすいまちにしていきたいかなということをお願いしたいと思います。では、よろしく願いいたします。

### 〈宮前区大槻委員〉

今、市長が言っていたような課題、川崎市の総合計画のお話をされていましたがけれども、総合計画を作るときに無作為抽出の市民の意見を聞いて対応したというお話がありますけれども、区民会議のメンバーに対してですね、総合計画に対する意見を求められていないんですけども、この辺はぜひ区民会議の委員からもですね、意見を聞いていただきたいなと思っています。よろしく願いいたします。

### 〈市長からのコメント〉

ありがとうございます。各区の区民会議のところで職員がご説明に上がらしていただいて、その場でも意見を伺っているという認識でございましたけれども、違いますでしょうか。総合計画作りはですね、続いておりますのでぜひ積極的にご参画いただければありがたいと思います。

### 〈麻生区岡倉委員〉

区民会議委員になりましたのは、市長の「最幸」に共感いたしましたして、区民会議に公募で応募しました。それで一つテーマなんですけど、川崎市の方で毎年かよくわからないんですけど、市民の意識調査というのをされていると思います。その中にですね、最幸という言葉、あなたは川崎市に住んでいて幸せか、またどんなときに感じましたかという年代によって統計を取ってもらえると、私も区民会議やっていてよかったなあと思えたりしますので、ご検討をお願いします。

### 〈市長からのコメント〉

幸せの尺度って多分、100人100通りのまさに個人の感じ方というものがあるかと思っています。私が最幸の幸せのというのはですね、こういったものをいろんな個人、あるいは団体が自分がやりたい、こういったことを実現したいといったものがある意味例えば

行政のしびりがあるってできないだとか、そういったものを一つ一つ取り除いていく、行政の立場でできることを一つ一つやっていくということを申し上げているわけですが、住民満足度といいましょうか、どういうふうな形でやっていくのかというのを少し研究させていただきたいと思います。

#### 〈多摩区辻野委員〉

先ほど 2025 年に団塊の世代が後期高齢者を迎える問題について、市長からお話がありましたけれども、まさに今回の国家予算でも川崎の予算でもそうでしたが、シニア世代は年金は減額、医療費、介護費は増大する。それから消費税は上がる、といった形になっていきますけれども、まさにこういう問題を解決するには健康長寿社会、川崎市は待機児童ではワースト 3 ということでありますし、健康長寿社会の構築っていうことを大きなフラッグを立てて、そこに向かってシニア予備軍をはじめ、多世代交流といった形でのそういう課題についてまい進していくという、フラッグを立ててそういう社会を作れると、まさに市長がいう、最も幸せな最幸のかわさきという状態ができるんじゃないかなというふうに描いているですけれども。

#### 〈市長からのコメント〉

ありがとうございます。川崎市は寿命という意味では非常に長いです。全国でも有数の長さを持っていますが、健康寿命というような尺度で見ていきますと、全国平均を下回ってしまうという残念な状況であります。先ほどのお話じゃないですけど、幸せの根幹の部分っていうのは、やはり健康であるということがそもそも一番元になっている部分であり、ここが失われてしまうと幸せの尺度というものがそもそもずれてしまうということですから、そこに力を入れていかなくちやいけないというのが、本当にそのとおりだと思います。それぞれの総合計画の中ですら、どういうことをしていけば具体的に健康寿命を延ばすことができるのかということ、一つの施策だけではなくそれこそ様々なところからやっていくという方向性でしっかりやっていくというのが最幸のまちづくりの最も重要なところだというふうに思います。ご指摘いただきありがとうございます。

#### 〈川崎区原委員〉

地域でちょうど保育園とか高齢者とか障害者の見守り活動を社会福祉法人で行っております。先ほどの市長さんのお話で地域包括ケアシステムということ新しい施策として伺ったりしてるんですけど、まだまだ不勉強なのですが、今後どのような具体的な方策・プランになるのかなというのを、もし出来ればちょっと教えていただきたいと思います。

#### 〈市長からのコメント〉

2025年までに地域包括ケアシステムを作りあげようというのは国家の大方針です。その中でそれぞれの自治体でどのように取り組むのかというのは自治体の本気度が問われているところでありまして、私も20の政令指定都市の市長会の中ですね、私も部会に入って地域包括ケアについてどうやっていこうかというのを他の市長さんといろんな話をするんですが、それぞれ各自治体全く事情が異なるので、本当に川崎らしい、地域に足が付いたものを作っていかなくちゃいけないなというふうに思っています。いま策定のビジョンについてですね、今年度中にこれを完成させるということになっておりますので、ここから具体的な三か年は芽を育てていくところですので、それについて7区の中でも各区それぞれの取組あるいは温度差というのは若干あります。この前お邪魔したところで多摩区ですね、多摩区は7区の中で最も進んでいるのではないかなと思いますけれども、多摩区の医師会の会長さんが他のいろんな医療従事者、福祉、介護、こういったところに関係する人たちをみんな集めて、みんな顔が見える関係を作ろうよという形でみんな集まって会議をしています。この前、公開フォーラムがありました。こうやって様々な各区の医療資源とか福祉資源っていうのは各区によってそれぞれ違うし、山坂の多いところと平らなところだとおのずと違ってくると、人口密度の違い、それぞれの各区あるいはもっと小さい単位で、私たちは今、どういう地域に住んでいるのかということ、その資源を見つけ出して、作っていくというのを丁寧にやっただけじゃいけないと思っております。ですから、パターンはこれですよと、川崎市版はこれだといってやってもこれは失敗すると思います。だからそれぞれの地域にあった包括ケアシステムというものを作っていかなくちゃいけない。いま大方針を策定中ということですので、もう少し待っていただくとありがたいと思っております。



## 5 7区区民会議委員の意見交換の内容 ～幅広い世代が区民会議に関わってもらうには～

7区区民会議委員の意見交換では、交流会に参加した委員全員が8グループに分かれ、「幅広い世代が区民会議に関わってもらうには」をテーマに意見交換を行いました。

各グループにおいて、区民会議の現状や幅広い世代に関わってもらうための課題やアイデアなど大変多くの意見が交わされましたので、次のとおり紹介します。

### (1) 幅広い世代による区民会議への関わり（現状）

#### 【委員構成】

- ・団体推薦は、団体の長など役職ある人が推薦される傾向があり、若い世代の推薦につながりにくい。(2件)
- ・町内会長などその町内で長く居ついた区民の参加が多い。
- ・現役世代もいるが、昼間に時間のやり繰りができる高齢者の委員が多い。
- ・団体推薦は、仕方なく引き受けている高齢者が多い。
- ・委員の中でも、団体推薦として区PTA協議会から推薦されている委員は比較的若い世代の代表である。
- ・委員推薦で任意団体に声掛けしても断られるため、福祉やPTAから推薦してもらっている。全体を集めての世代間交流は難しい。
- ・区民会議の構成員に若い世代がない。
- ・若い世代は優れた発想を持っている。地域で活動する若い世代を委員にすることが重要。
- ・公募で若い世代が出てこない。
- ・「幅広い世代による区民会議への関わり」については、委員への就任と地域における提案の実践の2つの面がある。
- ・一概に委員構成が幅広い世代である必要はなく、審議内容について、幅広い世代から意見を聴取すれば良いのでは。単に若い世代ということではなく、何らかの目標や目的があつてのことであると思う。
- ・委員の年齢構成は現状で問題ない。幅広い世代から意見をもらうことが重要。(2件)

#### 【認知度・イベント】

- ・周囲の知り合いに区民会議のことを聞いてみたが、本当に知られていない。
- ・フォーラムを開催しても、参加者の7割がシニア。
- ・若い人は区民会議フォーラムのようなものにはあまり来ない。
- ・区民会議フォーラムで小学生の作文コンテストを行って、小学生やその親に来てもらう工夫をしている。
- ・子どもの遊び場づくりをテーマにしている。公園を使いやすくすることが世代間交流につながる。(2件)
- ・防災のテーマで、中学生を消防署にインターンで職業訓練として参加させた。

### 【その他】

- それぞれの世代の人たちは、それぞれ自分たちのことを考えるのが一般的である。例えば 60代になると年金のことが気になるし、30代では自分の子どもやPTAのことなどに関心がある。なかなかそれを超えては考えられない。
- 60歳代と70歳代でも意見や感覚は違う。幅広い世代から様々な意見が出ると、議論がまとまらない。
- 専門職に従事する人が区民会議に参加していない。



## (2) 幅広い世代が区民会議に関わってもらうための課題

### 【委員構成・開催内容】

- ・若い人の参加促進が課題。(3件)
- ・会議や活動の内容が面白くないと参加・傍聴してくれない。(2件)
- ・会議室で会議しているだけでは面白くない。具体的なアクションがあると良い。(2件)
- ・若い世代は、議論されているテーマが自分自身に関係ないものと思っている。「街の美化」などといっても若い世代には響かない。
- ・若い人が委員に公募したくなるような区民会議にする必要がある。
- ・若い世代に委員になってもらうためには、何らかの仕掛けや場づくり、雰囲気づくりが必要。
- ・現役世代が参加できる土日開催は反対が多い。土日は団体のイベントが多く、どうしても平日夜になり、現役世代の参加が難しい。(3件)
- ・平日の昼間や夕方の開催だと参加できる人が限られてしまう。(2件)
- ・平日夜の会議・平日昼の調査活動に参加できる人は限られている。
- ・若い世代は平日昼間は働いているため、委員になってもらうためには土日に会議を行うなど時間の配慮が必要。(2件)
- ・地域活動は時間がないとできないシステムとなっているため、仕事がある世代は難しい。
- ・一時保育をすれば子育て世代の参加は不可能ではないが、それでも簡単には参加できない。
- ・現在の委員は、団体推薦と公募となっているため、年齢層が偏ってしまっている。

### 【認知度・広報】

- ・そもそも区民会議を知らない人が多い。区民会議の認知度が低い。更なるPRが必要。(10件)
- ・世代間交流と言っても、まずは知ってもらうことが大切ではないか。
- ・3期委員をやっているが、傍聴に来る人はほとんどいない。
- ・区民会議の調査審議テーマが区民ニーズに合致しているか確認する必要がある。
- ・提言した内容がその後どうなったか(事業化されたのか、予算化されたのか、など)が分からない。
- ・区民ニーズにしっかり対応し、広報することが必要である。
- ・意見を持っている人を探す必要がある。待っているだけではだめ。
- ・近頃は医療や福祉の仕事が増えているため、区民会議への参加を促す体制を構築する必要がある。
- ・まず、町内会に興味を持ってもらう必要がありその後、区民会議に参加してもらいたい。

### 【その他】

- ・立場によって地域課題だと思いが違う。
- ・幅広い世代の参加という観点では、子どもたちの参加も重要だ。
- ・若い世代は、何よりも経済・産業を引っ張ってもらうことが重要である。
- ・力(予算)がない (3件)
- ・前任者からの引継ぎもなかったもので、手探り状態なのが残念である。

### (3) 幅広い世代が区民会議に関わってもらうための意見やアイデア等

#### 【委員構成】

- ・公募枠を増やすことが良いのでは。
- ・公募人数の枠を広げ世代ごとにしたらどうか。
- ・委員は、団体からの選出だけではなく、世代別でも選出するようにすべき。(4件)
- ・PTAなどから推薦で委員を出してもらうような仕掛けも必要である。
- ・団体からの推薦をお願いする際に、団体の長や役員ではなく、趣旨を説明し若い世代の方を推薦してもらうような工夫を行えば良いのでは。
- ・区民会議で検討するテーマを決めてから委員を募集するというのも1つの手段ではないか。若い人たちが関心を持つようなテーマを先に掲げるなど。
- ・テーマをあらかじめ決めれば、高齢の団体会長ではなく、テーマに関心のある人を推薦してもらえる。(3件)
- ・区民アンケートなどにより事前に部会のテーマを決定し、それを掲げて委員を公募すべき。(2件)

#### 【幅広い世代の参加】

- ・各世代を取り込めるテーマにして参加させる。
- ・調査審議テーマは幅広い世代が参加できるものとする。
- ・自分自身に関係のあると思える、身近なテーマを取り上げるべき。(3件)
- ・「最大公約数」的なテーマの設定だとつまらない。地域で何が困っているのか、どんな支援が必要なのか、を踏まえた細やかなテーマ設定が必要。
- ・テーマを公募する。自分の意見が市政に反映されるという実感が大切。(2件)
- ・斬新なアイディアを持つ若い人が応募できるようなものにすること。
- ・若い世代が区民会議に参加するためのキッカケづくりをする必要がある。
- ・区民会議として提案を行うだけではなく、若い世代が賛同するような具体的な成果を出すことが必要では。
- ・若い世代に、まず町内会・自治会で役割を担ってもらい、そこで経験を積んだ上で区民会議など地域で活躍してもらえると良い。
- ・若い世代にも意欲のある人はいる。「良い街にするには、どうしたらいいか？」と意見交換するなど、若い世代を育てていくことが必要。(2件)
- ・区民会議サポーターのようなネットワークを作り、スマホなどで若い人からの意見をもらう。1委員で5人のサポーターを集める。(2件)
- ・出産・育児等で、仕事を辞めて(休んで)いる子育て期の女性は、地域をよく見ている。そういった人たちが区民会議をはじめ様々な会議に関わっていく形ができればよい。
- ・地域住民には「エネルギー」を持っている住民が多い。現場で出て行って活動をすることが有効。
- ・今回区民会議に参加して、ボランティアとして様々なことに関わっている方がたくさん存在するということを実感した。コラボすることができれば、いろいろなことができる可能性があると思う。関係団体を区民会議でコーディネートできると良いのではないか。(3件)

- ・開催日を土日、夜間にするなど、若い人が参加しやすい環境を整備する。
- ・土日にも会議を開催すべき。(2件)
- ・現役世代でも、世代ごとに考えが異なるので、年齢ごとの話し合いが必要。(2件)
- ・現役世代は多忙のため、区民会議に世代間交流を求めるのは難しい。退職や子育て後の人がメインになる。世代間交流は、区民会議のイベントで実現できる。シニアが地域で活躍し、仲間を作ることが大切。
- ・その区に来て短い住民の参加を促す。
- ・学生を参加させる仕組みが作れないか。
- ・区内に所在する大学から学生を委員として推薦してもらおうと良いのでは。(4件)
- ・学校と連携し、学生に参加してもらおう。(2件)
- ・中学生の授業の一環として、区民会議の傍聴に来てもらうような仕掛けも良いのではないか。
- ・中学校を会場として区民会議を開催しても良いのではないか。
- ・子ども会議を区民会議の一環として拾い上げる。
- ・子ども会議(地域教育会議の内部組織)委員に区民会議を傍聴してもらってはどうか。
- ・教育の現場で世代間交流を促すことが必要である。
- ・区民会議の参加に当たり、「企業」の協力や、裁判員制度のように「行政」の支援が必要。例えば、教師の参加については、自治体で支援できるのではないか。

#### 【認知度・広報】

- ・区民会議の認知度向上のため、各種イベントやインターネットで発信していくなど、更なる広報の工夫が必要。(3件)
- ・ラッピングバスで区民会議をPRしてみても。
- ・区役所モニターで宣伝し、委員も街なかでプレートを下げるなど周知する。
- ・YouTubeで会議中継をすることなどで、区民会議の認知度を高める。
- ・ネットを通じて参加できる仕組みづくりが必要 (2件)
- ・具体的に行動することが区民会議の認知度や参加につながるのではないか。
- ・提言を実現してアピールする。(4件)
- ・町内会単位など、細かい単位で区民会議の活動や成果を伝えていくことが必要 (2件)
- ・区民会議への参加に先立ち町内会に加入をさせる必要がある。多くの人が、転入した場合に町内会に加入すると思われる。区役所でのウェルカムセットで町内会加入の紹介を行っているが、それ以外にも加入促進策が必要である。(2件)
- ・区民会議の認知度向上に向けて、区役所からの情報発信だけではなく、区民が取り組まないといけないと思う。
- ・区民会議の成果を見せ、目立たせることで区民のバックアップが得られる。(3件)
- ・区民会議での提案が実現することを知ってもらうなど魅力のあるものにする必要がある。  
→3. 11大地震以降に区内の海拔が掲示されていないため、町内会ごとに設置することを提案し、実現。
- ・学校のたより、社会科副読本やPTA広報誌に区民会議の紹介記事を載せるのがよいのではないか。



- ・まずは会議を傍聴してもらったり、フォーラムに参加したりしてもらおう。(2件)
- ・地震に関するフォーラムや子育てフェスタなど、来てもらえるようなイベントを実施すれば、世代間交流も進むのではないかと課題に近い関係者を交えて取り組めると良いと思う。(3件)

### 【その他】

- ・地域の課題は出尽くしている。担い手の議論が必要。
- ・日頃から世代間交流が必要である。
- ・ある課題について市がビジョンを示し、意見をもらう方式がよい。
- ・どうしたら子ども会が入ってきてくれるか。子ども会も、役員のなり手がいないという課題は、他の市民活動団体と同じである。
- ・市長選の投票率が低いことから分かるように、区民の地域への関心が薄い。まずは地域への関心を持たせる仕組みが必要。
- ・事務局と区民会議委員の課題設定能力の向上が必要。



#### (4) その他

- ・ 区民会議の委員自身が、区民会議を理解できているかどうかという課題もある。一定程度の理解をしていますが、委員自身の頭で考え、議論すべきだと思う。そうして自分の中に落とし込んでいくことが大切だと思う。
- ・ 区民会議の認知度を上げるためにも、4期までの成果はなんだったのか、形になるものがあると良いと思う。4期までの成果を踏まえ、区民会議を生かしていく時期ではないか。
- ・ 区民会議委員には、審議を開始する前に、はじめに区の現状や課題を勉強する機会があると良い。
- ・ 区民会議における課題の捉え方について、委員間でレベル感がばらばらである。
- ・ 区の課題は多くあるため、各委員が感じている課題を会議の中でぶつけ合い、議論して検討テーマを選定する方法が良い。
- ・ 区民会議は色々な立場の人と意見交換ができて勉強になる。
- ・ 区民会議委員を団体推薦で固めてしまうと、話が進まないこともある。公募の割合を半分くらいにしても良いのではないか。
- ・ 団体推薦は充て職として就任している委員が多く、かなり日々忙しい状況であるが、団体の代表として組織力もあり、また、動員力もあることから、若い世代とのバランスが大切である。(2件)
- ・ 区民会議の良さは各組織の代表が出てきて具体的な取組みがあることである。
- ・ 委員の任期ごとの入れ替わりや、団体の長ではない人が推薦されるよう運用することにより、マンネリ化しない、幅広い議論へとつなげられる。(2件)
- ・ 審議テーマをピンポイントに絞ることが重要。幅広く読めるテーマだと、提言がただの作文になってしまう。
- ・ 区民会議で検討する課題については、案があっても実現に向けた具体的なプランまでは出てこない。どうしたら実現できるかを考える必要がある。(2件)
- ・ 区役所などですでに取り組んでいることについても、区民会議として、より拡大して取り組むべきだという意見を出しても良いのではないか。
- ・ 前期の課題を積み残したまま、新しいテーマに取り組んでいる。
- ・ 1, 2期の取組をアピールし、継続性を見せると、やってくれていると感じる人もいるのでは。  
⇨メンバーが変わっても同じテーマだと、なぜ解決されていないのか、と思われる。  
→これまでの蓄積があるので、前期より発展したことを示せると思う。
- ・ 行政に提出した提言がしっかりと実行されることが重要である。
- ・ 若い世代という視点に加えて、女性委員の割合を増やすことも必要である。
- ・ 女性の参加が少ない。
- ・ 区民会議の認知度向上には、区民に身近な「目に見えるような成果」を出すことが有効である。
- ・ 区民会議の認知度が低いことは悪いことではない。(困っている人が少ないからではないか)
- ・ 自分たちの手で自分たちのまちを作っていくという意識ができれば、区民会議の認知度が高くなくても良い。行政からの仕掛けがなくても、市民自らが取り組んでいくというのが本来

の姿だと思う。

- まちづくり推進組織と区民会議の違いが不明確。
- 高齢化が進む中で、家から出て来ない人の居場所づくりが必要。
- 高齢者が増えているにも関わらず、老人クラブの参加者が減少している。
- 男性の高齢者が引きこもらない環境づくりが必要。→カフェの設置を実施。
- 行政も町内会加入促進に更なる協力をして欲しい。
- 町内会加入は、地域の関わり合いを持つ上で不可欠なものである。
- 町内会加入促進は、行政に頼りすぎている部分もある。町内会ごとにマニュアル等を作成し、加入を呼びかけていきたい。
- マンション入居者については、管理会社が町内会と住民の間にいるため、加入の周知などが難しい。また、町内会と別に自治会ができてしまう場合もある。
- 町内会加入はお祭り等のイベントがチャンスである。
- 1年に1回のイベントで、楽しい目玉があれば多世代の参加が見込める。
- 中原区は、新旧住民が課題。世代間交流として、小学生と町会とのディスカッション（千人ワークショップ）を開催したが、運営が大変だった。こうしたイベントを開催するには予算が必要。
- ごみ集積所を綺麗にする取組を行ったが、清潔さはコミュニティーの強さと相関している。



## 6 区民会議交流会アンケート結果

平成27年2月9日実施

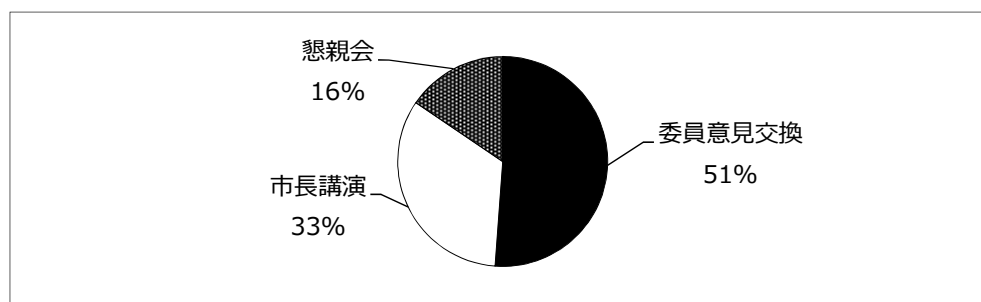
参加者数：84名

回収件数：74件

回収率：88.10%

### (1) どの企画に期待して来場したか（複数回答可）

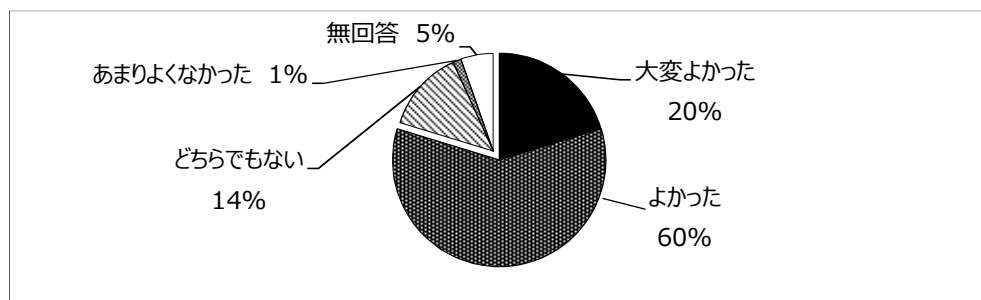
	(件)
委員意見交換	66
市長講演	43
懇親会	20
無回答	0
計	129



### (2) 区民会議交流会の企画についての感想

#### ア 交流会(全体)

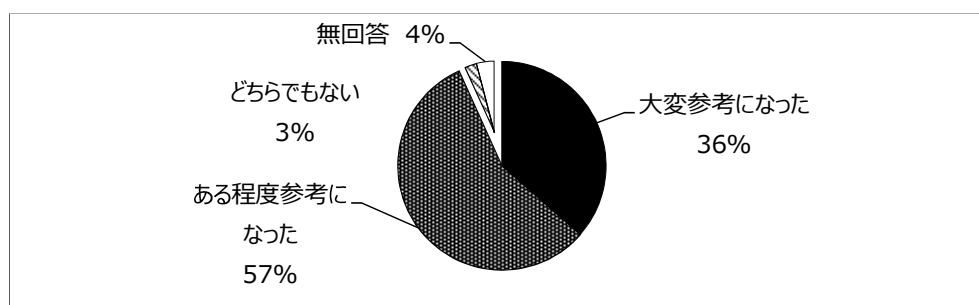
	(件)
大変よかった	15
よかった	44
どちらでもない	10
あまりよくなかった	1
無回答	4
計	74



イ 市長の講演

(件)

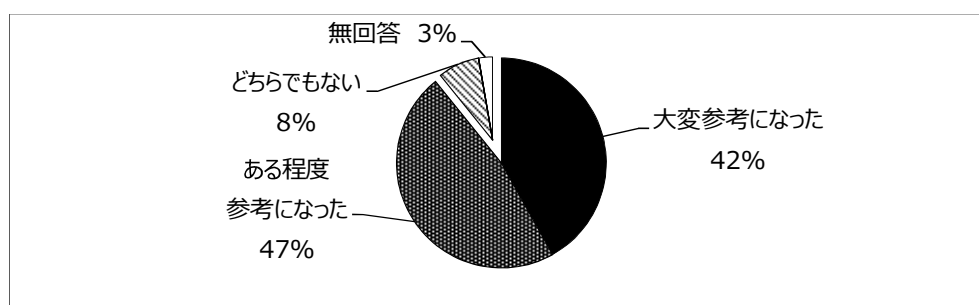
大変参考になった	27
ある程度参考になった	42
どちらでもない	2
参考にならなかった	0
無回答	3
計	74



ウ 委員意見交換(幅広い世代が区民会議に関わってもらうには)

(件)

大変参考になった	31
ある程度参考になった	35
どちらでもない	6
参考にならなかった	0
無回答	2
計	74

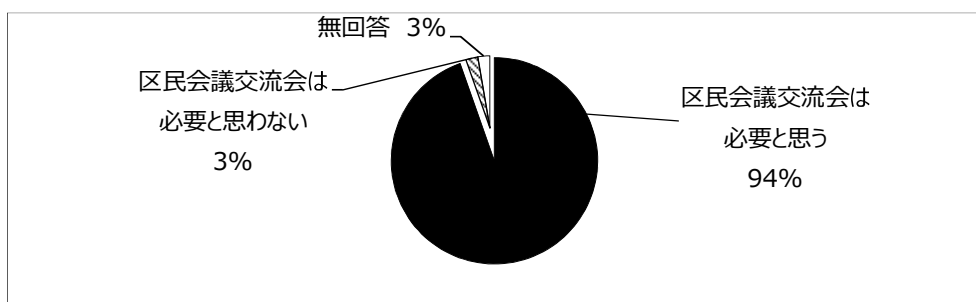


(3) 区民会議交流会のあり方について

ア 区民会議交流会の必要性について

(件)

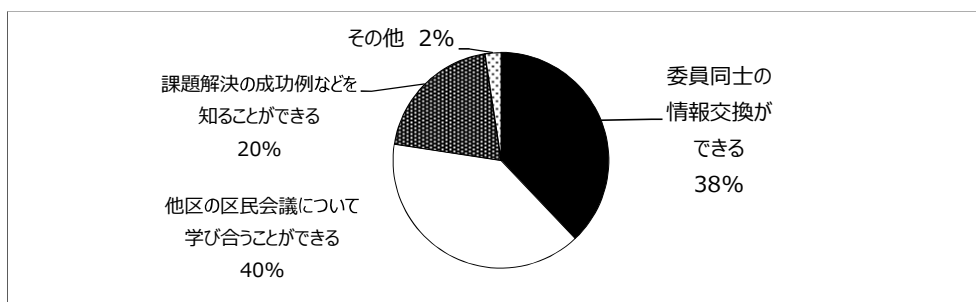
区民会議交流会は必要と思う	70
区民会議交流会は必要と思わない	2
無回答	2
計	74



イ 区民会議交流会が必要と思った理由(複数回答可)

(件)

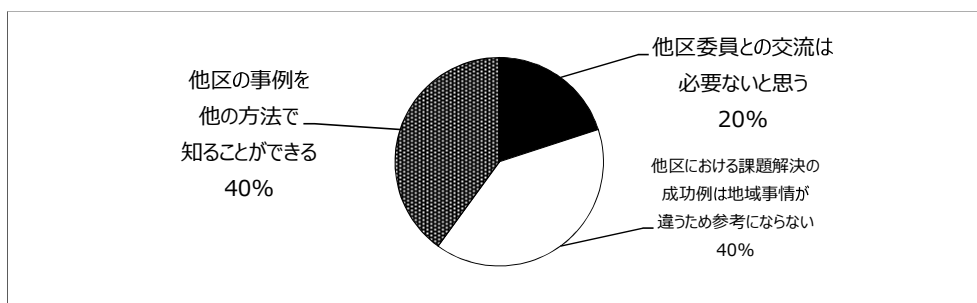
委員同士の情報交換ができる	47
他区の区民会議について学び合うことができる	49
課題解決の成功例などを知ることができる	25
その他	3
計	124



ウ 区民会議交流会が必要と思わない理由(複数回答可)

(件)

他区委員との交流は必要ないと思う	1
他区における課題解決の成功例は地域事情が違うため参考にならない	2
他区の事例を他の方法で知ることができる	2
その他	0
計	5



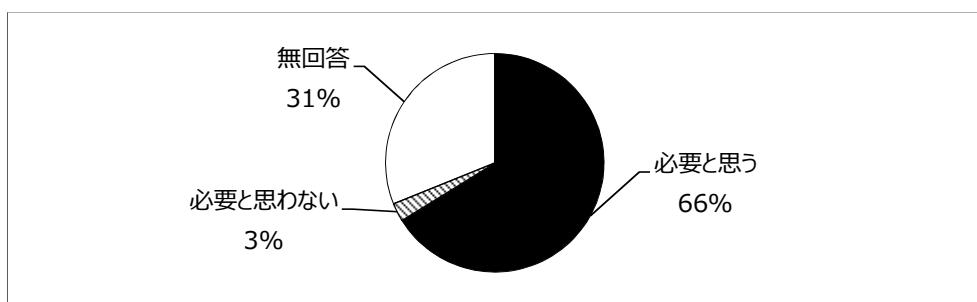
(4) 区民会議の活性化に向けた改善・見直しについて

ア 区民会議の活性化に向けた改善・見直しの必要性について

(件)

必要と思う ※	49
必要と思わない	2
無回答	23
計	74

※必要と思う改善・見直し点については次ページ



#### ◆区民会議の活性化に向けて必要と思った改善・見直し点

- ・マンネリ化しないためにも、改善・見直しは必要。(2件)
- ・地域の情報意見をいかに多く収集できるか各委員の努力が必要。  
実行・実施したくなる提言ができるかどうかにもかかっている。  
行政とのすみ分けもあり、小さな事から結果を出していくのが区民会議の役割と思う。
- ・区民車座集会との連動。  
テーマ抽出やアウトプットのフィードバック等により関心が高い市民を巻き込む。
- ・1回2時間では十分な意見も言えないし、結論が出ていないように思える。
- ・会議室での会合でなく、現場で会合を開く。  
例えば、子育て支援であれば「川崎区の場合「むかい」支援センターで開催。  
その時の利用者の声(現在、子育て中の保護者の意見を聞き、参考意見として検討する。)

#### 【課題の選定・委員の選任】

- ・「テーマ」を設定してから区民会議委員を公募で選んではどうか。(2件)
- ・テーマ(課題)を設定した上で、テーマ毎に委員を選任する方式に改める。
- ・幅広い世代を集めるには、テーマ毎の方がよい。
- ・幅広い年齢層で構成した方がよい。とくに公募委員の数を増やすとよい。(2件)
- ・10代・20代・30代・40代・50代等年代別の公募の方法を検討する。
- ・区民会議の委員の年齢が偏っています。幅広いテーマ、内容を議題にするなら委員の年齢も、様々な世代から選出するのがよい。
- ・区民会議の構成メンバーに各大学の学生さんに参加させていただきたい。  
公募のメンバーも20名中、10名程度半々に、フレッシュな意見、企画等を導入していきたい。
- ・事前メモを配布し、各委員から議題に対する対応について説明し、意見交換してテーマを設定すべき。
- ・課題の継続性が各区とも、無いと思われました。一期ごとの解決ではないようにしてほしい。
- ・最初から世代のバランスを取って募集してはどうか。
- ・特に、若い男性の参加が少ない。
- ・役所で把握している任意団体などの長が委員として出てくるとおのずから、委員は高齢者集団となる恐れがある。
- ・委員の構成・募集方法の見直し(女性の参加枠)(世代構成も検討)
- ・幅広い世代やセクターから委員を集めるべき。  
年寄りばかりではテーマの設定が偏ってしまう。
- ・公募の方法 意見の偏りがある。



- ・委員の任期は長くても3期あるいは2期にするべきではないか。同じ人が何年も続けるのはよくないと思う。
- ・任期2年は短すぎる。
- ・問題意識を持った方々を入れ、アクションを起こし、具体的な成果をあげることが大切。
- ・団体の長ではなく、各団体の中でふさわしい人を出してもらう。
- ・団体推薦は必要だが、適材の選出となるよう事前の働きかけ（根回し）が不可欠。
- ・複数の参加が必要と思う。世代の違う方々の意見を聞く事ができる。
- ・年代を若返らせるだけでも会議の内容に幅がでると思う。
- ・区民会議で検討していることが、区民の要望と一致しているか心配である。その原因も、若い委員が少ないのが原因と思われる。
- ・若い世代（20～30代）の参加が必要。
- ・会議が平日のため現役世代の参加が望めない、それ故、休日の会議を検討する。
- ・世代間の交流では是非参加が望まれる若い世代を出席させる為の工夫が必要だと思う。勤務先の理解も必要。
- ・若い世代が参加できるシステムが必要。
- ・若い人に合わせた時間帯の開催についてもご一考を。
- ・区民会議に参加して、楽しいと思った事が無い。楽しい会合の場にならないか検討が必要である。
- ・学校や若い人の集いの場への開催。

#### 【認知度の向上】

- ・開催の時間帯（夜間・土日）傍聴者の拡大・募集呼びかけ。（2件）
- ・区民への活動のPRの推進。（2件）
- ・区民会議の認知度が低い。
- ・区民会議の仕組みの広報。
- ・会議情報の広報を強化する。
- ・区民への広報の見直し。フォーラムにイベントを絡ませて興味を呼び起こす。
- ・区民会議への関心度を高める。時として見学会を設けて呼びかける。
- ・多くの人を対象にできるイベントの企画。
- ・提案や提言を実現して行く事で区民会議がPRできる。
- ・課題の解決を実現に1歩でも2歩でも良くなった実感を持てる様にしていく事が大事。
- ・成果が出ることで区民会議の価値があり、認知度も上がり、若い方も参加したいと思える会になると思います。
- ・「区民会議はこんなにすごい」というのをカッコよくPRできる動画やスライドを作るといいのではないのでしょうか。
- 「区民会議はこんな活動をしています」ではなく、「こんなにすごいんだよ」

という風にカッコよく、自分もいつかメンバーになりたい！と思われるような見せ方ができればいいと思います。

今後、地域を支える若手人材を育成しなければいけないと思います。

- ・一般の方にアピールした方が良いと思う。

実績をアピールすると委員のやる気も増すと思う。

#### 【その他】

- ・2年間という中でテーマをある程度実りのあるものにしようとすると、調整という感じの部分が多くなるように思います。その事についても考えて行く事が必要ではないでしょうか。
- ・事務局の強化「意義のある OUTPUT を得るのが事務局の役割」という位置付け、モチベーションを与える。
- ・選出区分枠 予算（会議の回数が増やせるように）
- ・「まちづくり協議会」と「区民会議」のすみわけを・・・  
両方がうまく連携できると、地域の活性化につながるのではと思う。
- ・子どもの教育は親の教育が第1です。親の教育会が必要と思います。
- ・企業も住民税を払っている市民の一人として問題点と提案も活かせるのではと思います。
- ・各団体の特性を活かすためのコーディネート。
- ・区民会議の認識のずれが委員によってあると思う。

## (5) 自由意見

### 【7 区区民会議委員の意見交換】

- ・他区の区民会議委員の方と交流ができ、各地区の特色や取組状況を知る事ができ、大変良かったと思います。(3件)
- ・多種多様な価値観を知る事は非常に大切だと感じました。
- ・各区、皆さん熱心にいろいろな取組みをされており、参考になりました。
- ・それぞれの区の課題がわかった。自分の区の問題としてとらえることができた。
- ・世代間の交流について、もっと深く話を聞きたかった。
- ・もう少し意見を交わす時間が欲しかった。
- ・意見交換の時間が少なかった。  
具体的な事例について説明・意見交換できる時間の確保。
- ・川崎市の課題(地域課題)について具体的な資料を使っでの意見交換の場にするべきだと思う。
- ・テーマに沿った話し合いの時間はもう少し長くてもよいと思います。
- ・皆様に真剣な討議ができてよかった。時間は丁度よいと思う。
- ・今日話し合ったことを1つ1つ取り組めればよいと思う。

### 【市長講演について】

- ・市長の講演の時間が短すぎる。せいぜい、30分は欲しい。
- ・もっと時間をかけて各区の課題等について意見交換すべき。  
資料を使って浮き彫りにするべきだと思う。

### 【開催時期・時間・場所】

- ・時間も丁度良いと思います。
- ・時間が短すぎます。現行の倍以上必要だと思います。
- ・場所はこのままで、川崎の中央で参加しやすい。
- ・開催時期はおまかせ致しますが、場所も駅からすぐということで今日は大変感謝です。時間をかえるとしたら、懇親会の時間等ふくめて8時迄を希望します。  
帰路が自宅着10:00頃になります。
- ・女性は夜の参加は大変です。
- ・休日の昼間、たっぷり時間をとる。  
雨天の場合は考慮し、屋外でも屋内でも開催可能な場所はないか。  
定型の会議では、新しい時代に合った発想は無理だと私は思っています。
- ・若い方の参加のために日中の開催が必要と思う。

### 【交流会全体についての感想】

- ・今のままで良いと思います。(2件)
- ・年3回程開催希望。近隣区とのミニ交流会も有効だと思う。
- ・大変良い企画です。
- ・貴重な市民の交流の場だと思います。続けて下さい。

- ・ 障害者の方の参加を。  
健全者の方ばかりではなく、様々な方の参加を希望します。
- ・ 他の区の委員のご意見を聞くことができ、有意義でした。
- ・ 他区の団体の取組を聞いて良かった。
- ・ 地域のやさしさを学べてとても良かった。
- ・ 参考になる話が聞いて良かったです。
- ・ 今日の様な交流の場もいいと思いました。
- ・ 川崎区では、事前に①区民会議で取り上げるべき地域の課題。②今後、特に力を入れてほしい事業。③「10年後の川崎区」について、目指すべき方向。  
この3点の中で、要望の多かった課題を2グループに分かれて調査・検討しております。

いただきました御意見に関しては、今後の区民会議や区民会議交流会を検討する中で参考にさせていただきます。

御協力いただき、ありがとうございました。

区民会議交流会事務局 市民・こども局区政推進部区調整課